

るようになるかもしれない。
効果があれば広げていきたい。

商工観光部

Q 古川町中心市街地観光サイン整備事業に5400万円の予算だが、サインより町内で買い物してもらおう政策が先ではないか。中心市街地を活性化させる政策はあるのか。

A 中心市街地店舗拡大促進事業を活用していただきたい。

Q 古川町中心市街地観光サイン整備事業の設計内容は。

A 東京駅構内のサインも考えた会社。4500万円は設置費用で900万円は監理費。古い町並みにあった格調高いサインが必要。日本語、英語、台湾の繁体字の3種類を表示。

Q 中心市街地店舗拡大促進事業を活用する店舗があるか。

A 中心市街地の店舗の減少は全国的で解決策がない。ネットショップやビジネスサポートセンターを活用して粘り強く取り組むしかない。消費人口減が問題。何もしないと人口が減っていくので自分達の意識を変えていく事も必要。

Q 中心市街地店舗拡大促進事業は何店舗予定しているの

か。問い合わせはあるのか。

A 3軒を予定している。現在問い合わせはない。

Q 中心市街地店舗拡大促進事業について、既存店の拡充や改修に活用できないかとの声もあるがどう考えるか。

A 今後検討していきたい。

Q バリアフリーにする政策が多いが、飛騨市全域をバリアフリーにしていくのか。

A 池ヶ原湿原、安峰山を優先に財政のバランスを見ながら一つずつ作っていききたい。

Q 池ヶ原湿原遊歩道整備事業に7050万円の予算がついているが、これは優先順位が高い事業なのか。

A 県の宝物に認定されている。スカイドームやまつり会館を先にと議論があるがこちらが遅れていると判断。

Q 池ヶ原湿原トイレ整備は。

A 北陸電力に電気を引けないか交渉中。車椅子でトイレを使えるよう検討していく。

Q (株)飛騨ゆいの指定管理施設にかかった27年度の指定管理料は。

A 16施設で1億5千万円。

Q コンベンション誘致推進事業の補助率や上限の設定は。

A 市内宿泊者10名以上を対象にし、1名当たり1千円の補助を検討中。

教育委員会

Q ふるさと読本作成事業について、何名の編集委員か。

A 12名の方で、10回程度開催して編集していく。

Q 学校が主体のものは、小さなまちづくり応援事業の対象になるのか。

A ケースバイケースで検討したい。地域と学校が連動したものであれば可能な場合も。

Q 飛騨市美術館等運営検討事業について、飛騨市に関係ある方の展示は考えているか。

A 今年度も一人、来年度も検討している。

Q 飛騨市内の学校では、避難訓練や火災訓練を抜き打ちで行った事はあるか。

A 現在も抜き打ちで実施している。年間3回程度実施。

Q ノルディックウォーキング普及事業について、他のスポーツについては。

A ノルディックウォーキングへの要望が特に強かった。今後グラウンドゴルフやトレーニング施設も検討したい。

熊本地震へ義援金を贈る

平成28年4月14日以降に発生している熊本県などの一連の地震による甚大な被災状況を鑑み、飛騨市議会として、被災者の方々を少しでも支援させていただきたく、義援金15万円を飛騨市を通じてお贈りしました。

6月定例会初日の終了後に、葛谷寛徳議長、野村勝憲副議長、森下真次議員会会長が市長室を訪れ、義援金を都竹淳也市長に手渡しました。

葛谷議長は「被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。この義援金が被災された方々の力に少しでもなれば嬉しい。」と述べられました。

編集後記

2月の選挙により議員数は合併当時の26人から14人となり、議員の活動範囲を拡げ、よりチェック機能として機能する議会であって欲しいとの声をよく耳にします。

3月から会派はなくなり、政策で競い合う雰囲気が出てきました。6月議会では議長を除く全員が一般質問をし、ヤジも無く提案型の質問が出る等、改選前と比べ変化が出てきました。例えば任期4年間でヤジは連発すれど一般質問は数回(4年で16回の質問が可能)の人がおりました。

7月11日から14日にかけて市内4地域で「市民との意見交換会」を開催しました。

参加者から地域の課題や要望など様々な意見が出され、中でも(株)飛騨ゆい発足の経緯と経営についての質問と、議会で2度否決された百条委員会の問題で「過去のこともどしっと追求し、真実を市民に伝えて欲しい」の要望が多く会場からありました。心配されている課題や要望は議会でも検討してまいります。(野村 勝憲)

